

AI-POWERED

2023.10.17

AI活用戦略II - わが国のAI-Powered化に向けて - 概要

KEIDANREN
一般社団法人
日本経済団体連合会

CONTENTS

I. AI-ReadyからAI-Poweredへ

II. AIの積極的活用

- 包括的な戦略の策定
- 企業・社会のAI-Powered化

III. AI活用に付随するリスクへの対応

- AIガバナンス
- 知的財産に関する課題
- 人間の能力に関する課題

IV. わが国におけるAI開発能力の強化

- 環境整備
- わが国の強みを活かしたAIの開発

V. 今後の取組み

I. AI-Readyから AI-Poweredへ

AIの積極的な活用

- ✓ 「AIを活用するか否か」は過去の議論。Society 5.0 for SDGs実現に向けてAIを活用することが重要。
- ✓ AIのメリットをあらゆる分野にて享受できる「AI-Poweredな社会」を早急実現する必要。

AIの活用とそれに伴う
リスク対応は表裏一体

AI活用の前提として、
AI開発能力強化が必須

AI- Powered な社会

付随する リスクへの対応

- ✓ 誰一人取り残されることなく人々が幸せに暮らせる社会を構築するためにAIを活用する=「人間中心のAI」という目的を明確にする必要。

各種リスクの低減に寄与する
AIの開発が不可欠

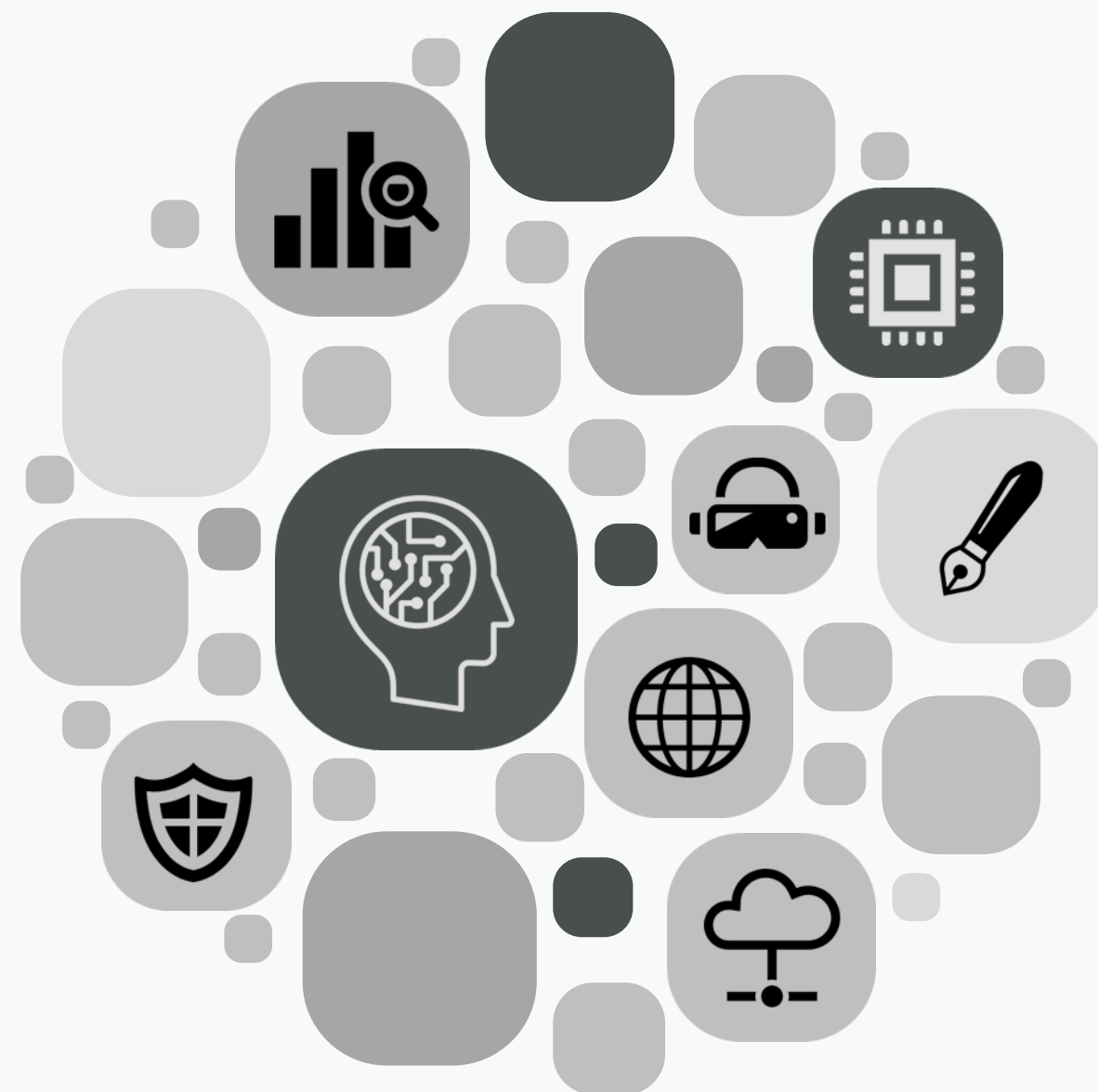
開発能力の強化

- ✓ 競争力向上はもとより健全な競争を担保する観点から、わが国の開発能力強化が不可欠。
- ✓ ルール形成と連動しながら、信頼できる高品質AIの開発を戦略的に進める必要。

II. AIの積極的な活用

1. 包括的な戦略の策定

- ✓ 「人間中心のAI」の原則のもと、わが国の強みを活かし、AI活用を積極的に進めることが重要。国際的ルール確立等に対し主体的に関与するためにも黎明期の取組みが重要。
- ✓ 政府において、AIはもとより、データの整備と活用、web3推進等を通じたトラスト/透明性の確保、コンテンツに関するクリエイターと利用者双方の権利の適切な保護を含めDX全体を俯瞰した包括的な戦略を早急に策定すべき。
- ✓ 関係府省庁による短期的かつ既存の取組みをボトムアップでまとめた形式的「戦略」ではなく、必要な施策を一元的な司令塔のもとトップダウンで整理した大局的戦略とする必要。



II. AIの積極的な活用

2. 企業・社会のAI-Powered化

AI-Poweredな社会



- ✓ あらゆる社会経済活動においてAIを実際に活用し、費用に見合った効果を実感できるようにする必要。
- ✓ 各ドメインで蓄積された知見とAIとを組み合わせ、事業、ひいては社会全体の刷新につなげることが重要。
- ✓ AIの科学への応用（AI for Science）が俄かに活性化。関連技術との連携により、効率・質の向上等をリードすべき。
- ✓ AI活用の技能養成はもとより、成長産業等への円滑な労働移動や、産業構造転換への対応に係る検討が必要。

III. AI活用に付随するリスクへの対応

1. AIガバナンス

基本的考え方

- ✓ 人間の生命や人権、社会のあり方等に影響を及ぼすAIの利用については適切な規律が求められる一方、その他のAI活用に関しては、過度な制約を課すべきでない。
- ✓ 「人間中心のAI」という原則を踏まえて、AIが有する無限の可能性を解き放ち、社会課題の解決等に向けて有効に活用すべき。

エコシステム全体の取組み

- ✓ AI開発事業者はもとより、AIサービスを提供する事業者や、その利用者各々の責任のあり方を明確にしつつ、AIエコシステム全体でガバナンス向上に取り組むことが必要。

国際的な整合性

- ✓ 取組みがガラパゴス化しないよう国際的整合性を適切に担保することが必要。各国・地域が新たなルールを各々検討するなか、AI活用が過剰に抑制されたり、ルールの不整合性/不透明性が生じ得る点に留意すべき。

01
基本的考え方



02

エコシステム
全体の取組み



03

国際的な
整合性



III. AI活用に付随するリスクへの対応

2. 知的財産に関する課題

予見可能性向上 に向けた法的課題

- ✓ 知的財産権の保護はもとより、AI事業者や利用者が権利侵害リスクを負わない環境の整備が重要。
- ✓ 著作権法第30条の4について、予見可能性を高める観点から明確化/事例充実等を図るべき。



知的財産の 保護・活用



知的財産に関する エコシステムの構築

- ✓ データ提供者、開発事業者、AIサービス提供事業者、利用者各々が利益を適切に享受できる環境を整備すべき。
- ✓ 利用者への批判のリスクを最小化するとともに、権利者に対し適正な利益を還元する仕組みを技術的制約に留意しつつ検討すべき。



III. AI活用に付随するリスクへの対応

3. 人間の能力に関する課題

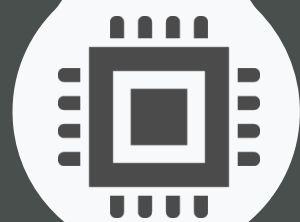
- ✓ AI-Poweredな社会の実現を目指すうえでは、教育や人材育成の場においてAIを活用する能力を涵養することが重要。
- ✓ 一方、AIの活用が人々の思考能力の低下や感性の衰え等につながるのではないかと懸念も。
- ✓ AIが生活に対し意図せず与える影響について検討することが必要。



- ✓ 「AIに頼らない」のではなく、情報の正誤・真贋を自ら判断し「AIを正しく用いる」ことに関する議論や、それを理解し実行するための包括的な教育・人材育成のあり方を検討すべき。
- ✓ 初等・中等教育等においては、児童・生徒の能力やリテラシー、活用場面などを勘案しながら、「AIネイティブ」世代に適切な環境を整備することが肝要。

IV. わが国におけるAI開発能力の強化

1. 環境整備



研究開発支援

- ✓ GPU確保の後押しはもとより、関連する重要物資の安定的なサプライチェーン確保が課題。
- ✓ 大規模計算資源の整備を含め公費による研究開発支援や、人材育成/確保が必要。



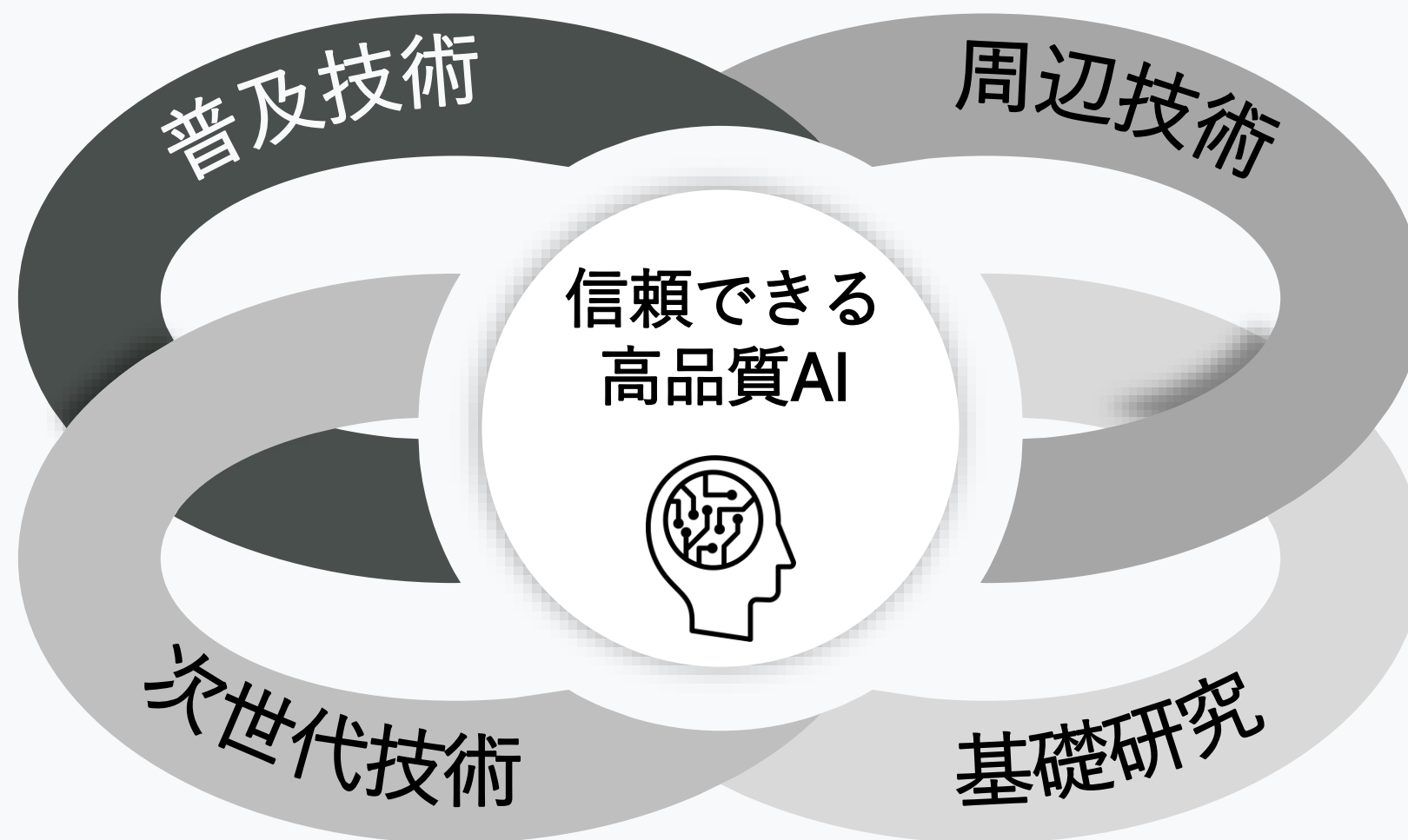
データの整備

- ✓ 競争力強化に向け、官民によるデータ整備・連携が重要。
- ✓ 日本語特有の表現等を可能とすべく、官民が連携し高品質なデータベースを整備すべき。

IV. わが国におけるAI開発能力の強化

2. わが国の強みを活かしたAIの開発

- ✓ 知的財産権保護等ガバナンスに焦点を当てつつ、次世代技術も念頭に、かねて経団連が掲げる「信頼できる高品質AI」の開発を進めるべき。
- ✓ 現在普及している生成AIの開発/活用はもとより、AI全般に係る基礎研究の推進や周辺技術の開発に対して、リソースをバランス良く投じる必要。
- ✓ 画像・動画等を生成するAIの開発においては、ルールの形成等と連動しつつわが国のコンテンツ力を活かし、「稼げるAI」を開発すべき。
- ✓ 開発したAIの普及も視野に入れつつ、グローバルサウスを含む各国・地域、国際機関との連携をリードすることが重要。



V. 今後の取組み

- ✓ AIに関する技術は日進月歩であり、激しく変化する環境のもといち早く行動することが求められる。本提言を踏まえ、AI開発/活用はもとよりリスクへの対応に引き続き積極的に取り組んでいく。
- ✓ AI-Readyを超えたAI-Poweredな企業・社会の実現に向けて、今後とも議論を継続し、適時適切に考え方を発信していく。